

各種現場向けエッジAI-ソリューション 取り組み紹介

弊社では現在、様々な現場における安全装備の装着状況や危険エリアへの接近検知システムなどについて検討を進めています。

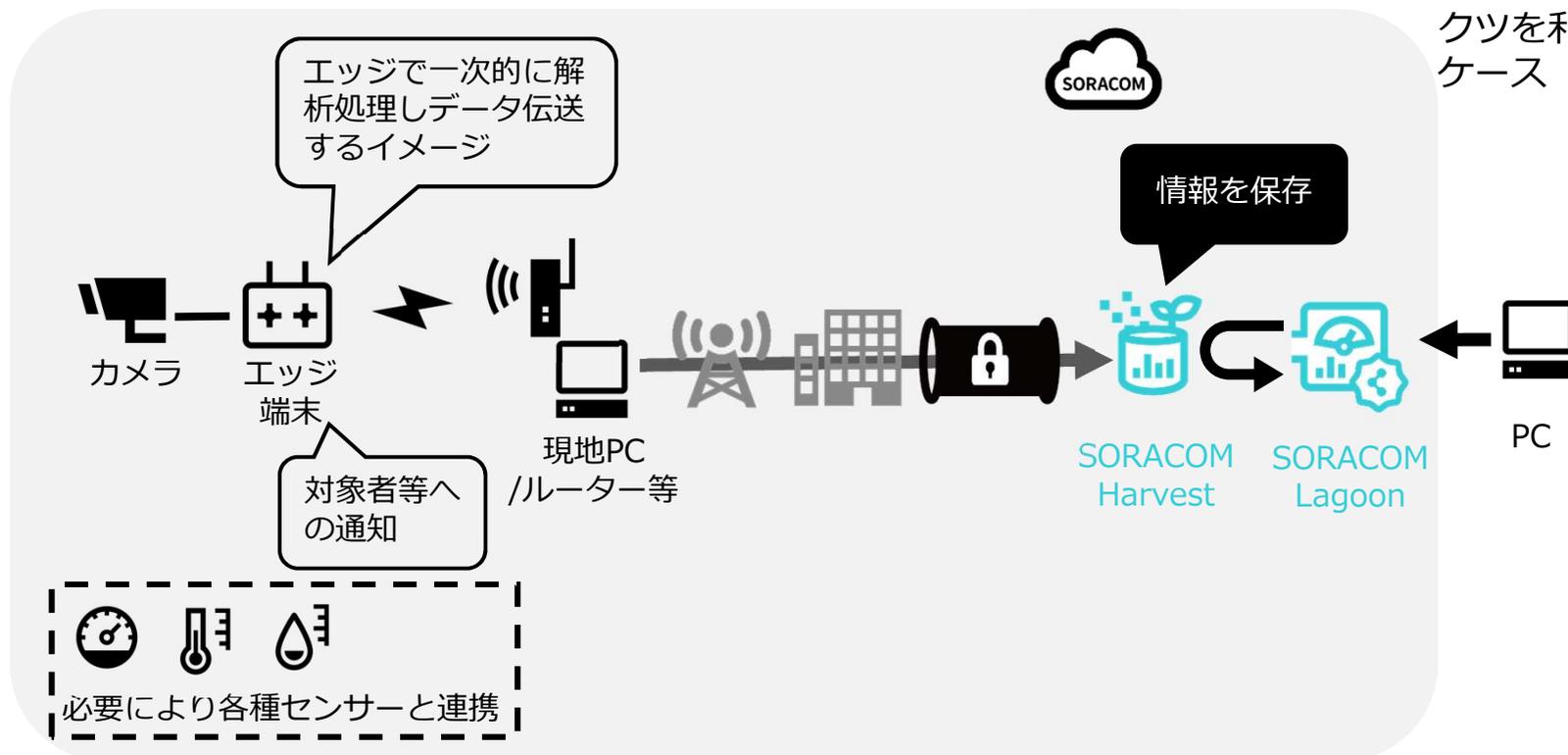
コンセプトとしては大規模なシステムではなく、比較的簡単な構成で導入できる画像+エッジAI技術を活用した「ポン付け」可能なものを目指しています。次ページ以降に様々なシーンでの活用イメージを紹介しますので、ご興味のある方はぜひともお問合せください。

実証実験等を含めて、ある程度弊社リソースによる安価なご提案をさせていただきたいと思っております。

システム構成イメージ



本図はプラットフォームとしてソラコムプロダクトを利用のケース



様々な現場においてカメラを中心としてエッジ端末で現場状況の判定を行い必要な情報展開を行う。結果情報はバックエンドに保存し必要により二次活用を行う。



建築・土木の工事現場において、ヘルメットや安全帯などの安全装備の装着を画像から検知し着け忘れの検知・通知を行う



各種製造現場において、帽子やマスク、ゴーグルなどの安全装備の装着を画像から検知し着け忘れの検知・通知を行う



空港や鉄道などの交通市場の現場において、各種安全装備の装着を画像から検知し着け忘れの検知・通知を行う



危険が伴う現場（製鉄化学系工場、上下水道処理施設、大型工作機械周辺など）で危険エリアに近づいた作業者を検知し注意を促す

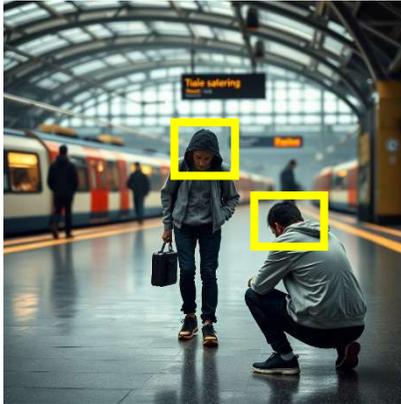
図のイメージでは、カメラの画角にエリアを設け（黄色い枠部分）ここに人が近づいた場合に警告を通知する。



熱中症の危険が伴う現場でレベル毎の危険エリアに近づいた作業者を検知し注意を促す

図のイメージでは、カメラの画角にエリアを設け（赤と黄色い枠部分）ここに人が近づいた場合に警告を通知する。

例えば赤枠内は即時警報、黄色枠内は一定時間以上滞留した場合に警告など。



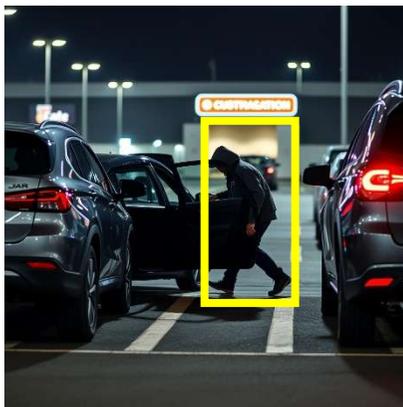
ふらついている人を検知し安全管理に役立てる
急激な動作や座り込みなどの検知も含む

図のイメージでは、カメラの画角に入った人の頭などの動きを検出して、標準的な動きよりも大きい場合、具合が悪く気分がすぐれないという判定を行い管理者等へ警告を通知する。



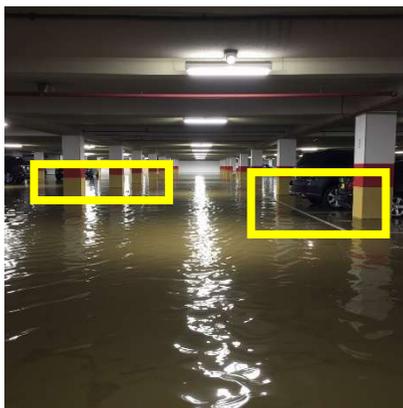
ヘルメットや作業着のマークや氏名などを読み取って特定の役職者がどこにいるか？誰がどう動いていたかを識別する。人の位置検出や動線データを行い業務効率化に役立てる

指示を仰ぎたい技術者の居場所、報告対象の役職者の居場所、特定の作業場所での人の動線データ取得などを行う。



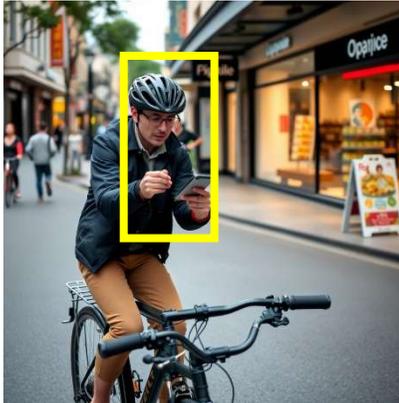
商業施設やファミレスなどの駐車場において車上荒らし対策として利用する。

不審な行動を学習させて、通常の乗り降りなどの正常行動ではない場合に管理者へ通知する。

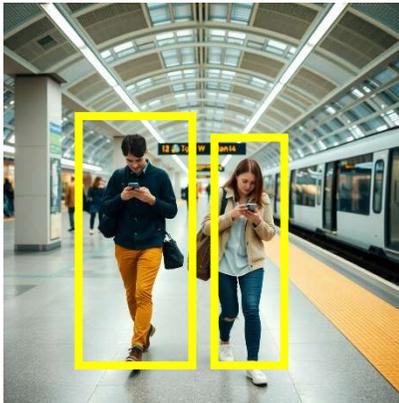


商業施設、マンションなどの地下駐車場でゲリラ豪雨などにより浸水してきたことを検出する。

所定の水位まで上がってきたことを画角内で検知したら管理者へ通報や排水装置の作動などを行い被害を抑止する。



駅、商業施設、商店街などの人の多いところで「ながらスマホ」をしている人物を検知し注意を促す仕組み。スマホを操作しながら歩いたり、自転車に乗ったりしている動きを検出したら、サインージ+音声などで注意を促して事故の未然防止に役立てる



お問い合わせ先

株式会社カトム

URL: <http://www.kdg.co.jp/katom/>

E-Mail: sales1@katom.kdg.co.jp

TEL: 042-624-6664(代)

9 : 00 ~ 18 : 00 (土日祝定休)

〒192-0085

東京都八王子市中町5-1 八王子中町ビル5F